

REST-wagon II

取扱説明書

REST-wagon II を快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見る您可以通过よう大切に保管してください。

REST-wagon II の特長

■ブラッシュアップポイント

- SサイズからLサイズまで、全てのサイズでISO(国際規格)による衝突安全テスト「ISO7176-19Annex A」に合格しました。
- さらに広くなった搭載スペース。
- 背高さ調節機構付きになりました。
- 張り調整バックサポートが長くなり、骨盤部のサポートが向上しました。
- 操作しやすくなった高さ調整式押し手グリップのダイヤルロック。
- 車載時固定フック受け金具対応フレームになりました。
- オプションに車載時用固定フック受け金具を追加しました。

■これまでの基本機能も継承

- 簡単折りたたみ
- 無段階ティルティング機構+無段階背リクライニング機構
- 姿勢保持機能付
 - ・調節スリングシートによる背座調節
 - ・トランクサポートベルト、骨盤サポートベルト
 - ・外転サポートパッド付の座シートクッション
- 座面奥行き、フットサポート高さ調整式
- シートユニット
 - ・背シートには身体の近くからベルトを取り出せるトランクサポートベルト用のダブルファスナーを装備
 - ・全体にメッシュ生地を採用し、さらに背シートクッション材は通気性と圧分散に優れた立体編物フュージョン(10mm)を採用



※製品の仕様は改良のために予告なく変更することがあります。

目次

- | | |
|-------------------------|--|
| ●安全にお使いいただくために……………P1・2 | ●折りたたみ方・開き方……………P11・12 |
| ●各部の名称……………P3 | ●M・Lサイズ アームサポート金具(AS-2)を取り付けた場合の注意…P13 |
| ●製品構成……………P3 | ●車載使用時の車椅子の固定方法……………P14 |
| ●オプション部品……………P3 | ●車載使用について……………P15・16 |
| ●使用前点検……………P3 | ●車載時固定用フック受け金具の取り扱い……………P17 |
| ●各部の取り扱い……………P4・5・6・7・8 | ●車椅子の取り扱い……………P18 |
| ●調節スリングシートについて……………P8 | ●お手入れ・メンテナンス……………P19 |
| ●開き防止ベルトの取り扱い……………P9・10 | ●仕様……………P19 |
| ●車への積み下ろし……………P10 | |

- ⊘ この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
- ❗ この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

●警告（使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。）

- ⊘ 本人を乗せたまま放置しないでください。
- ⊘ はずみをつけたり、つき放したりしての移動（走行）はしないでください。
- ⊘ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- ⊘ ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。
- ⊘ エスカレーターでは使用しないでください。（一般的にも禁止されています。）
- ⊘ 子供に操作させないでください。
- ⊘ 坂道での駐車はしないでください。
（ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があります大変危険です。やむをえず）
（駐車するときは必ず介助者が付きそってください。）
- ⊘ 座席や背もたれ、フットサポート等に立たせないでください。
- ⊘ 本人を座らせたまま、本体を抱えて移動しないでください。持つ位置によって、各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたんで介助者の手をはさむおそれがあり、大変危険です。
- ❗ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。
（身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方医や取り扱い業者にご相談ください。）
- ❗ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。
- ⊘ 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。
- ❗ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。
- ⊘ 改造や分解はしないでください。

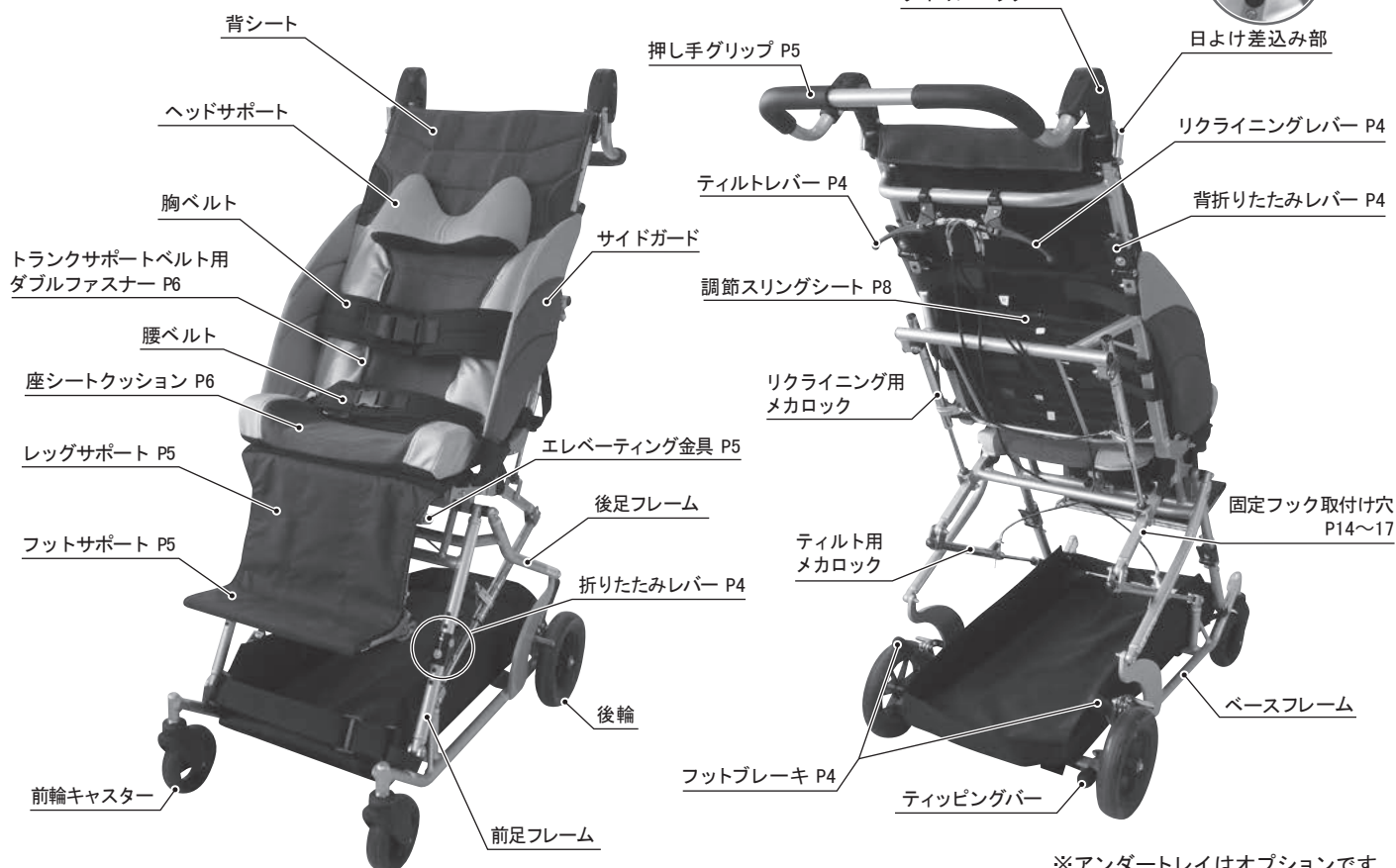
●注意（使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的障害が） 発生する可能性が想定される事項です。

- ❗ 医師の処方で製作された場合。
- ⊘ 本人以外での使用はしないでください。
（個人用に処方された補装具となりますので、安易に貸し出したりしないでください。）
- ⊘ 処方目的以外での使用はしないでください。
- ❗ 車椅子を正常な状態で走行させていても、不意に前輪が段差に引っかかった場合には、前方へ転倒する可能性があります。走行する際は前方の路面状態を確認しながら進んでください。特にティルトやリクライニングを起こした姿勢で胸ベルトを緩めに調整している場合に前方転倒のリスクが高まりますので、十分にご注意ください。
- ❗ 段差越えの際のキャスター上げ操作はティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、けがのおそれがあります。（段差越えについては18ページを参照してください。）
- ❗ エスカレータの出入り口付近（特に手すり巻き取り部）、エレベータ、自動ドアなどの付近で使用する際は、はさまれないよう注意してください。

- ❗ 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- ❗ 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないように注意して操作をおこなってください。
- ❗ 製品を持ち運ぶときは、折りたたんだ製品が不用意に開かないように開き防止ベルトでしっかり固定されていることを確認してください。（開き防止ベルト、および持ち運びについては9～10ページを参照してください。）
- ❗ 本人が座った状態でのリクライニング操作は、体重がかかり急に倒れることがありますので十分に注意してください。
- ❗ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- ⊗ 折りたたみ、および開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- ⊗ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⊗ 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- ⊗ 押し手グリップに重い物を引っ掛けしないでください。状況によっては、急に後方に倒れることがあります。
- ⊗ 子供が背もたれなどにぶらさがらないようにしてください。背もたれなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があります大変危険です。
- ⊗ 子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⊗ 保護者・介助者などが寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- ⊗ 調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- ⊗ シートを取り外した状態での使用はしないでください。
- ⊗ 気温の差の激しい場所や異常に高温な場所（車中など）に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- ❗ 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- ❗ 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ❗ リクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 定期的に処方医・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- ❗ からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方医のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- ❗ 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながる可能性があります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ❗ 走行する車両内で座席として使用する場合は、この取り扱い説明書の本文（P14～P17）をよく読んで理解し、搭乗者もしくは保護者（入所施設の責任者など含む）の責任において実施してください。
- ❗ 車椅子を車両に固定する際は、車両に設けられた車椅子固定装置を使用してください。事前に車椅子固定装置の取り扱い説明書をよく読んで理解し、正しく使用してください。
- ⊗ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落したり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ❗ 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカロック・ガスダンパーなどは特に水にぬらさないよう注意してください。
- ⊗ 水中での使用は絶対にしないでください。
- ⊗ 荷物等の運搬に使用しないでください。
- ❗ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには(不要になったときには)取り扱い業者にご相談ください。

各部の名称



※アンダートレイはオプションです。

製品構成

		個 数
●基本フレーム		1
●調節スリングシート（背・座）		1
体幹サポート インナーパッド	体幹	左右1対
	骨盤	左右1対
レッグサポート		1
●シートユニット	背シート	1
	座シートクッション	1
	サイドガード	左右1対
	ヘッドサポート	1
	胸ベルト	1
	腰ベルト	1
●ダイヤルロック式押し手グリップ		

オプション部品

●日除け	
●アンダートレイ	
●介助用ブレーキ	P6
●テーブル	P8
●インナーパッド・ハイトイプ	
●トランクサポートベルトⅠ型	P6
●骨盤サポートベルト	P6
●トランクサポートベルトⅡ型	P6
●アームサポート金具	P7
●転倒防止装置	P7
●車載時用固定フック受け金具	P14~17

使用前点検

- ◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。
- ◎折りたたんだ状態から開いたときは、各部のロックが確実に効いているなど、正しく開いていることを確認してください。
- ◎リクライニング機構やティルト機構がスムーズに作動することを確認してください。
- ◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。
- ◎前輪キャスターや後輪にヒビ割れや欠け、破損がないことを確認してください。

各部の取り扱い

●折りたたみレバー

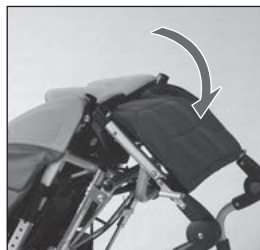
REST-wagon II を折りたたむ際に操作します。

レバーを閉じる、もしくは開くとロックが解除します。折りたたみのときは、基本的にレバーを閉じる方向にパイプごと握ってロックを解除してください。折りたたみから開くときには自動的にロックされますが、必ず左右のロックがかかっていることを確認してください。

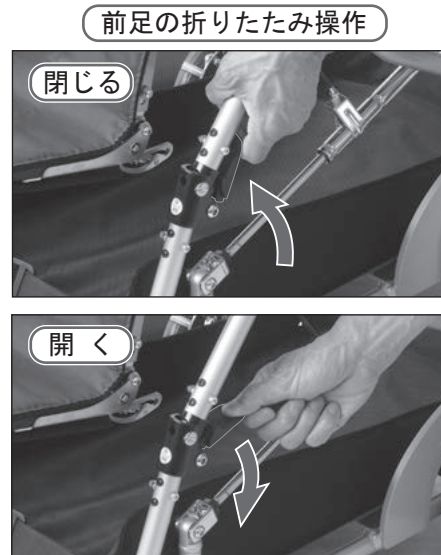
ロックピンが表面よりわずかに出ているぐらいが、ロックの目安です。

凹んでいるときはレバーにガタつきがあり、ロックされていません。

バックサポートにも同様のロック折りたたみ機構があります。この折りたたみレバーの方は開き方向で操作してください。



バックサポートの折りたたみ

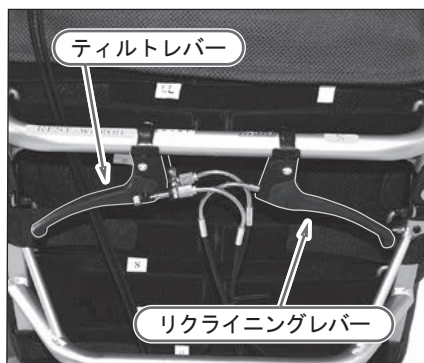


- ・折りたたむときのレバー操作（ロック解除）時には、手や指などはさまないように十分に注意してください。
- ・近くに小さなお子様がいることを確認してください。
- ・お子様には絶対に操作させないでください。

●ティルトレバーとリクライニングレバー

リクライニング用（ティルト用・背リク用）レバーは、無段階で調節がおこなえます。レバーを握るとロックが解除され、握ったまま任意の角度に設定したら、レバーをはなしてください。その角度でロック（角度固定）できます。

- ① ティルト式リクライニング（ティルト）
ヘッドサポート～フットサポートまでが一体となって背座面角度一定のまま、リクライニングします。
- ② リクライニング（背リク）
バックサポートのみがリクライニングします。



- ・リクライニング（ティルト）角度を調節するときは必ず両手で操作をおこなってください。乗っている方の重さで急にリクライニングすることがあり大変危険です。乗っている方の体重を支えるように操作してください。
- ・リクライニング（ティルト）レバーのあそびが多くなってきたら、操作がスムーズにできなくなります。そのようなときはワイヤーの張り調整をおこなってください。
- ・お子様には絶対に操作させないでください。

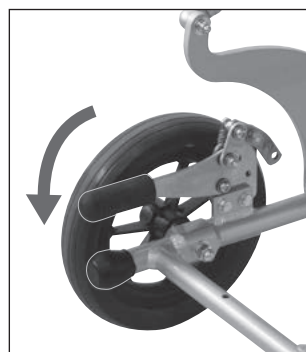
●ブレーキ

停車するとき、乗り降りのときに使用してください。ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。

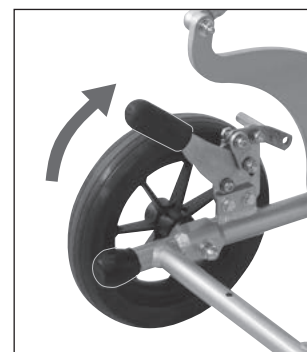


- ・乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- ・坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ・ブレーキの効きが弱く感じられる場合は停車中に動き出すことも考えられ危険です。すみやかに取り扱い業者にご相談ください。
- ・車載して使用する際は、定められた位置に車椅子をセットし、ブレーキをかけてから車載用の固定ベルトで車椅子をしっかりと固定してください。

ブレーキがかかった状態



ブレーキを解除した状態



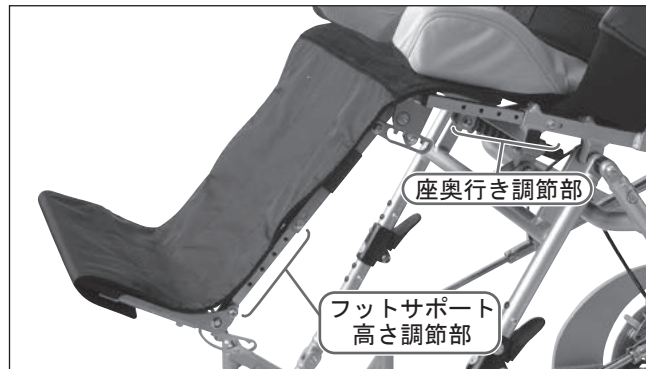
各部の取り扱い

●座奥行き調節とフットサポートの高さ調節

使用される方の大腿長、下腿長に合わせて座奥行きの調節とフットサポートの高さ調節ができます。

ボルト・ナットによる差し替え式です。

座奥行き調節は10mm間隔で、フットサポートの高さ調節も同じく10mm間隔で調節できます。座の奥行きを伸ばしたときは、座クッションも前方へ取り付けてください。

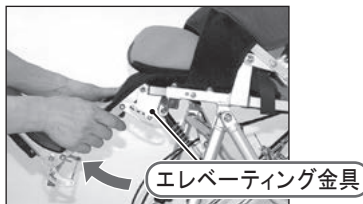


●レッグサポートのエレベーター

・上げる設定の操作

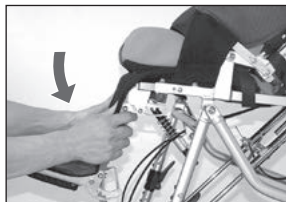
レッグサポートパイプを両手で軽く持ち上げ、左右のエレベーター金具（ノコギリ金具）を指で押し上げながらレッグサポートを上げてください。

下げきりから4段階約14度きざみで角度設定ができます。



・下げる設定の操作

レッグサポートパイプを両手で軽く持ち上げ、左右のエレベーター金具（ノコギリ金具）を指で押し上げながらレッグサポートを下げてください。



●フットサポートの角度調節

・開く設定の操作

フットサポートをかるく持ち上げ、左右のフットサポート角度可変金具（ノコギリ金具）を指で持ち上げながらフットサポートを開きます。上げきりから5段階約14度きざみで角度設定ができます。



・閉じる設定の操作

フットサポートの先端を持ち上げながら適切な角度に設定してください。フットサポートを閉じた状態で下側にある横棒を持ち上げるとフットサポートの開き止めのロックがかかります。ロックを解除する場合は、横棒を押し込んでください。



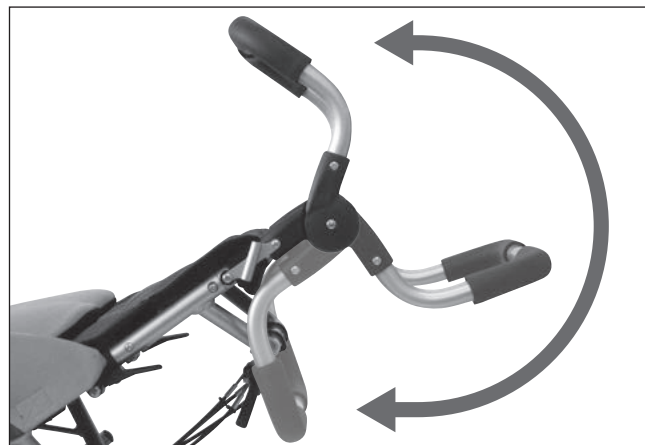
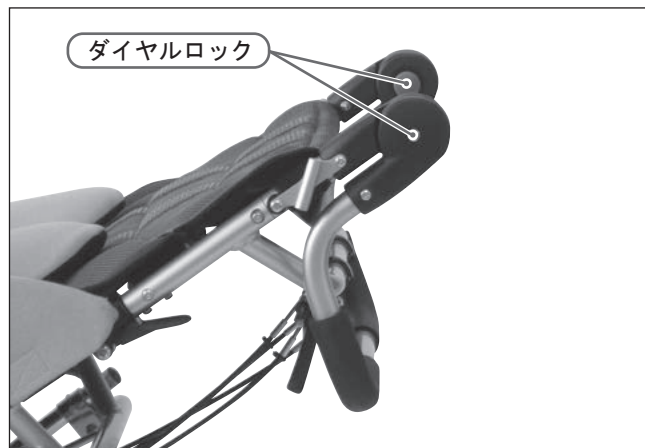
解除

① 指をはさまないよう、注意して操作してください。

●高さ可変押し手グリップ

ティルト角によって、押しやすい高さに調節できる可変式の押し手グリップです。

押し手グリップの根元にあるダイヤルロック内側のボタンを指で押し込むとロックが解除されて、押し手グリップがフリーに動きます。押し手グリップを押しやすい高さに調整したらボタンから指を外してください。ダイヤルの最も近い刻み位置でロックがかかります、押し手グリップが固定されます。折りたたんだ際に、押し手グリップの設定を変えると折りたたみサイズをコンパクトにすることが出来ます。



①

・ダイヤルロックを操作し、押し手グリップの角度を変更したときは、ロックがかかって押し手グリップが固定されていることを必ず確認してください。例えば、ダイヤルロックのボタンが押し込まれたままになってロックがかかっていないと、押し手グリップが急に上ったり下がったりして危険です。

・子供がぶら下がったりしないよう注意してください。またかばんや荷物をかけないでください。

・高さを調整するときには、ダイヤルロックの隙間で指や皮膚をはさまないよう注意して操作をおこなってください。

各部の取り扱い

●トランクサポートベルト・骨盤サポートベルト（Ⅰ型・Ⅱ型オプション）

〔トランクサポートベルト〕

身体により近い、背シートのダブルファスナーからベルトを取り出しているため、外側からの胸ベルトよりも高いホールド力を得ることができます。

長さを取り付け高さの調節がおこなえます。（マジック式）取り付けの際、高さを合わせる目安としては、わきの下に指一本分のすき間を空けるようにしてください。

開口部のダブルファスナーは、ベルトにあたるところまで上下からしっかり閉じてください。正面のバックルを「カチッ」と奥までしっかり差し込んで、外れないことを確認してください。

〔骨盤サポートベルト〕

クッション性の高い腸骨パッド（左・右）によりベルトの当たりをやわらげ、またサポート力を高めるためにバックルの左右にあるマジックテープでベルトの締め加減の微調整をおこなうことができます。

（この微調整はベルト装着後におこなうことも可能です。）

ベルト全体の長さは、取り付け部のアジャスターで調節してください。Ⅰ型は、SS、S、M、ML、L、LLの6サイズ、Ⅱ型はS、M、Lの3サイズです。



※写真の例はⅠ型です。



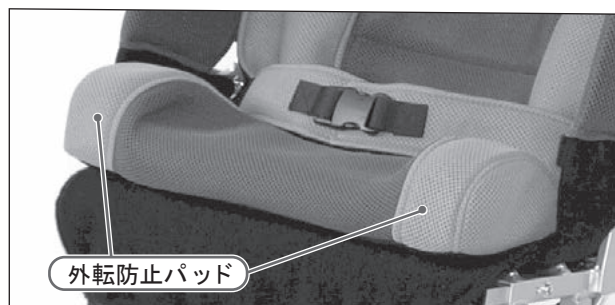
- ・処方上、必要とされたベルト類は、安全のために必ず装着してください。
- ・ベルト類はバックルを「カチッ」と奥までしっかり差し込んで、外れないことを確認してください。

●座シートクッション

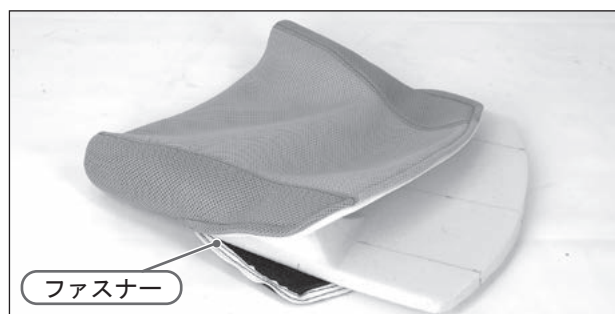
座シートクッションには、臀部の前すべりを防ぐ目的のアンカーサポート（ウェッジ）と脚の開きを支える外転防止パッドが備わっています。

クッションの形状でアンカーサポートの機能をもたせていますが、さらに座スリング調節で矢状面方向の調節をおこなうこともできます。

カバーを洗濯する際は、後方のファスナーを開けて必ず中のウレタンクッションを取り出してください。



- ・決してクッションが入ったままで洗濯しないでください。ウレタンクッション、カバーともに乾かないばかりか、ウレタンクッションそのものが劣化してしまいます。



●介助用ブレーキ（オプション）

走行中や坂道でスピードを減速する役割のブレーキです。

ブレーキレバーは、両方同時に均等な力で握ってください。片側だけ強く握ると、車椅子の向きが急に変わってしまい危険です。



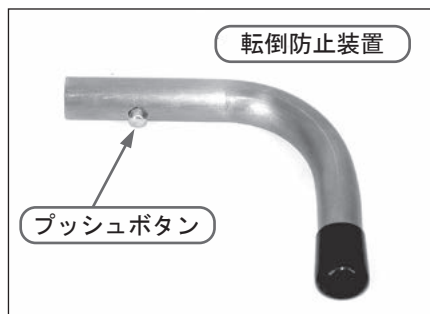
- ・介助用ブレーキの効きが弱くなってきた、または左右の効きに違いを感じたときは、ブレーキ本体にあるマイクロアジャスターなどでワイヤーの張り調整をおこなってください。



各部の取り扱い

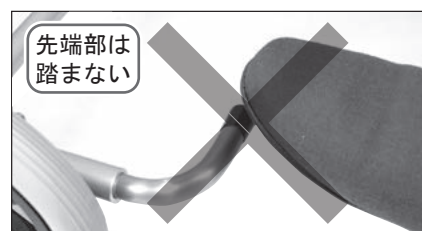
●転倒防止装置(オプション)

REST-wagon II は、ティルトやリクライニングの倒し角により後車輪をやや後方にレイアウトしておりますが、使用環境(坂道や傾斜が多いなど)やティルトを倒したときの後方安定性に不安定な様子が見られたときは、転倒防止装置(オプション)の取り付けをおすすめします。



(取付け方法)

ティッピングゴムを外し転倒防止装置を差し込んでください。
転倒防止装置の下側にあるプッシュボタンを押しながら、パイプに差し込みます。プッシュボタンがパイプ下側にあけられた穴に飛び出てセットされます。取り付け後は、転倒防止装置が確実にセットされていることを必ず確認してください。



<使用方法>

転倒防止装置は、後方転倒を防ぐためのものです。必ずセットした状態でお使いください。ただし、転倒防止がひっかかる、または段差越えが頻繁にあるなど、場面によっては向きを変更して解除することができます。解除は、プッシュボタンを操作して、転倒防止装置を本体内側(横向き)に回転させてください。フレーム内側に空いている穴のところで再びプッシュボタンが設定されます。この解除の状態では、転倒防止装置は機能しません。その場面が済んだら再びセットしてください。



- ・ 転倒防止を内側に設定した状態で、ティッピングする際は、決して先端部を踏まないでください。転倒防止装置のプッシュボタンが破損するおそれがあります。パイプが曲がっている根元あたりを踏むようにしてください。
- ・ 転倒防止装置は後方への安全を確保するための装備です。そのためティッピングによる段差越えは困難になります。段差を越えるときは、段差の少ないところを探るか、後ろ向きに後輪から上がるようにしてください。転倒防止装置と地面の間で足などをはさまないように注意してください。

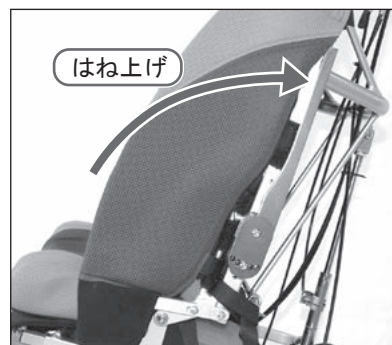
●アームサポート金具(オプション)

当社製の車椅子や姿勢保持装置に取り付けることができる、はね上げ開閉式のアームサポート金具です。

側方から乗り降りする際には、アームサポートをはね上げることで乗降の負担を軽減することができます。また、バックサポートの起こし角度に応じて角度設定も調節できます。下側のボルト位置を差し替えると、中心から前後2段階ずつ11度刻みで角度が変更できます。

アジャスターボルトは基本的に左右の平行を調整するためのものですが、角度の微調整も可能です。

※この部分に指やものがはさまらないように注意してください。



- ・ 必ずアームサポートパッド(肘あて)を取り付けて使用してください。金具のみで使用すると、アームサポートステーの先端などで指がを負うおそれがあり危険です。

各部の取り扱い

●テーブル(オプション)

腕の重さを支えて身体が側方へ傾かないよう、または自ら肘をついて(前腕部を支持面に)脊柱を伸展するなど、姿勢を保持するためのクッションテーブルです。

座面の上にのせて使用します。

取り付けベルトを左右側方からバックサポートにまわして、バックルで「カチッ」と確実に装着してください。(車載使用時を除く)

天板は成長に合わせての高さ調節と車椅子のバックサポートの倒し角度によっては、腕をのせる天板の角度の調節がおこなえます。

テーブル側面のノブボルトと脚部の高さ調節穴位置によって、適切な高さや角度に設定してください。ノブボルトは、ゆるまないようにしっかり締め込んでください。

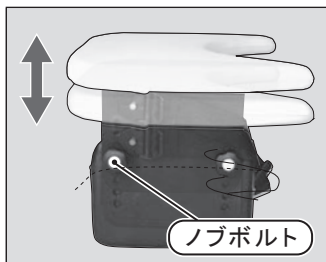
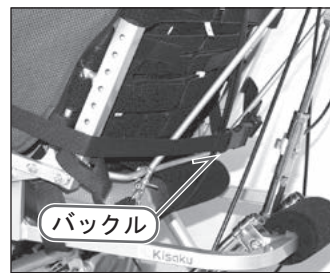
※車載使用する場合のクッションテーブルについて

身体の前方に置かれるクッションテーブルは、通常の

ドライブでの揺れに対して姿勢保持に効果が期待できる一方で、急ブレーキや衝突などの際には、前方へ飛び出した使用者の腹部を強く圧迫してしまうリスクも考えられます。

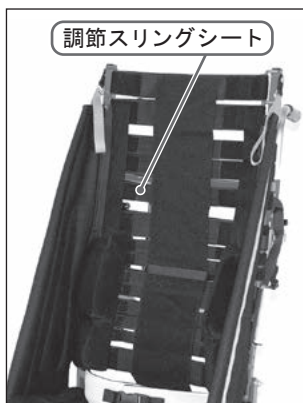
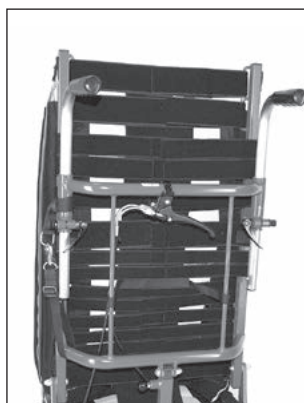
ご本人の姿勢を安定させ、ドライバーが運転に集中する為に必要不可欠となるケースでは、クッションテーブルの取り付けベルトは使用せず座面に載せるだけの設置にしてください。アクシデントの際に、クッションテーブルは前方に飛び出すこととなりますが、使用者の腹部の圧迫を避けることができます。クッションテーブルが飛び出しても同乗者を直撃しないように、車椅子のすぐ前の席はできるだけ空けておくなどの注意をお願いします。

また、弊社の別製品であるカーシート用のクッションテーブルもご検討ください。天板中心付近に芯材を入れていないため、大きな衝撃が加わったときに天板が割れることがなく、多少の柔軟性があります。



- ・直射日光下では表面が熱くなるおそれがあります。火傷などに十分ご注意ください。
- ・踏み台や腰掛などその他の目的で使用しないでください。テーブルが破損する、またはバランスをくずして転倒するなどしてけがをするおそれがあります。

調節スリングシートについて

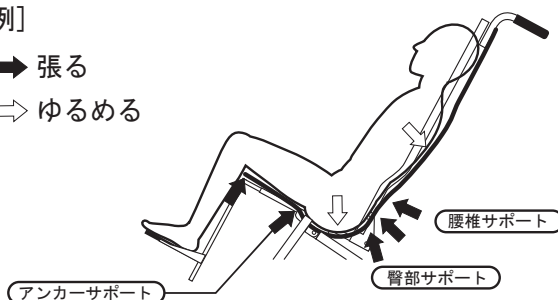


帯状のスリングベルト(マジック式)の張り加減を調整することで、使用される方の身体特性に個別に対応することができます。

矢状面に加え、水平面の調整もおこなえます。

[調整例]

- ➡ 張る
- ⇨ ゆるめる



バックサポートは、①骨盤の前後の傾き(バックサポート下部)②体幹の前後の傾き(バックサポート中央～上部)③腰部の支え(バックサポート腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中の中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。

座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部(坐骨周辺)をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起きにくくするのが一般的です。



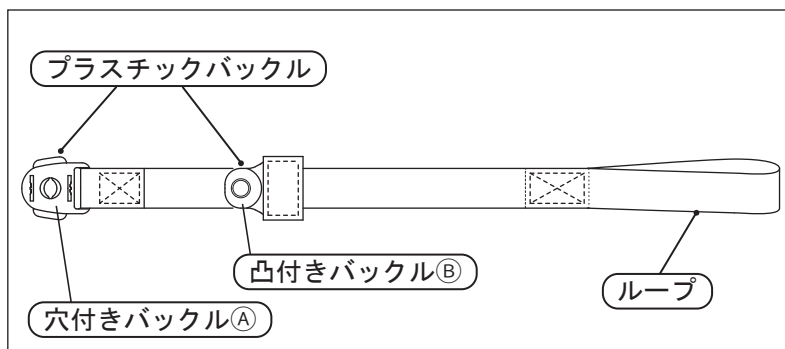
長期間使用するうちにスリングシートの伸びが生じることがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

開き防止ベルトの取り扱いについて

開き防止ベルトはREST-wagon II を折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

●開き防止ベルト・各部の名称

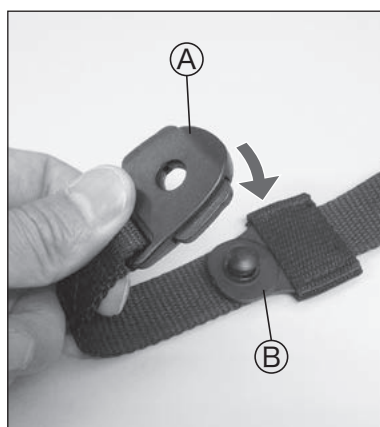
プラスチックバックルは、ベルトの先端に穴付きバックル^①とベルトの中間に凸付きバックル^②を縫いつけています。後端には開き防止ベルトをバックサポートに取り付けるためのループがあります。



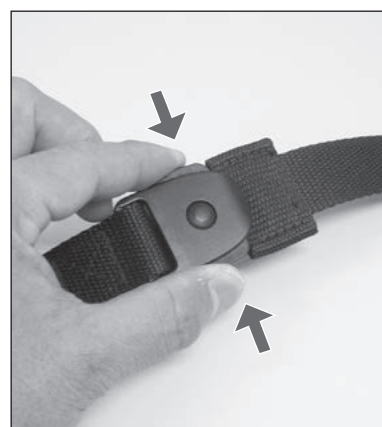
・プラスチックバックルの割れや欠けなどの破損が無いこと、付け外しが正常に機能すること、ベルト部分に糸のほつれや破損が無いことを常に確認してください。

●プラスチックバックルの取り扱い

ベースフレームに巻くように穴付きバックル^①を折り返して、凸付きバックル^②の奥まで、しっかりはめ込むと自動的にロックします。外すときは、穴付きバックル^①の左右にあるボタンを押し込むとロックが解除されて外れます。



上から奥まではめ込むと自動的にロックします。



左右に飛び出しているボタンを押し込むと解除してバックルが外れます。



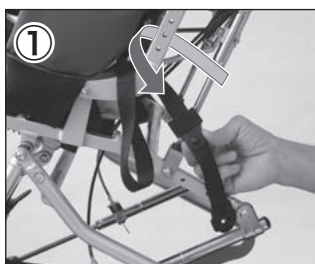
・プラスチックバックルは、はめ込む際には①と②の間に布や紙、その他異物が無いことを確認してください。異物は破損の原因であり、またバックルがはまらないことや無理に押し込むと外せなくなる場合も考えられます。
・ご使用の際は、正常にロックされて外れないことを必ず確認してください。

REST-wagon II 本体への取り付け方法

開き防止ベルトは、左右どちらかのバックサポートパイプに取り付けます。(出荷時は左側に取り付けています。)

取り付け位置はバックサポート下端あたりを目安にしてください。

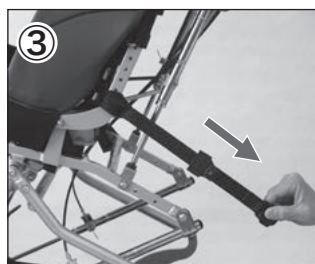
本機を折りたたんだときに、開き防止ベルトをベースフレームに巻き付けてバックルをはめると、しっかり固定することができます。



開き防止ベルトのループを背パイプ内側からバックサポートのスリット(またはスリングの間)に通します。



ループに穴付きバックル^①をくぐらせてください。ベルトがねじれないように注意して通してください。

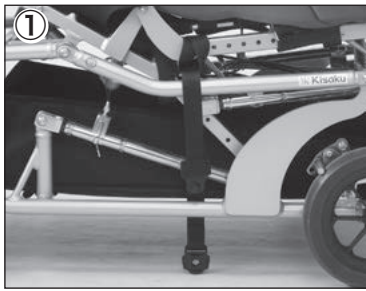


ループのところに余りやたわみがないようベルトをしっかり引ききってください。

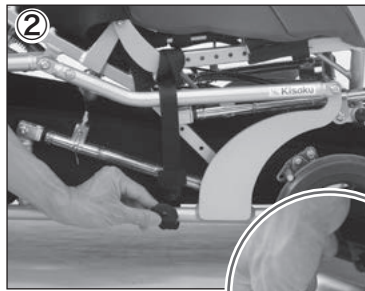


通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにバックサポートヌキパイプと補強のスミパイプの間に穴付きバックル^①を内側からくぐらせて折り返し、凸付きバックル^②にはめ込んでください。

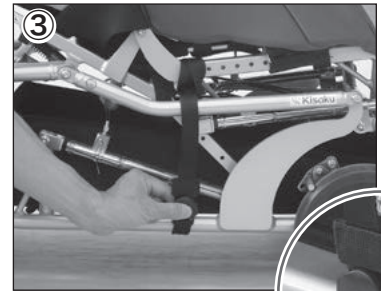
開き防止ベルトの使用法



① 折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトをベースフレームの内側にセットします。ベルトが捻じれないように注意してください。



② 穴付きバックル①をベースフレームに巻くようにして折り返してください。



③ 穴付きバックル①を凸付きバックル②に、はめ込んでください。正常にロックされて外れないことを必ず確認してください。



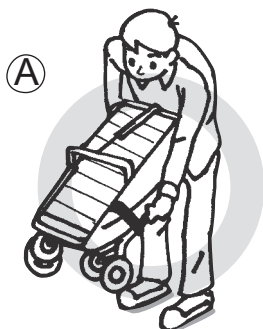
- ・開き防止ベルトを使用するときは折りたたんだフレーム部、各部で指などはさまないように注意してお取り扱いください。
- ・持ち運びや立てかけて置く際は、開き防止ベルトを正しくセットして、プラスチックバックルが確実にロックしていることを確認してください。
- ・開き防止ベルトをセットしていなかったり、ベルトの通し方に誤りがある、プラスチックバックルが浅く差し込まれてロックが不十分になっていたり不適切な状態では、フレームが不用意に開いてしまっ、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくセットしてください。
- ・ベルトおよびプラスチックバックルの損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- ・車への積み降ろしなど、抱え上げるときは下記の説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。

車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意



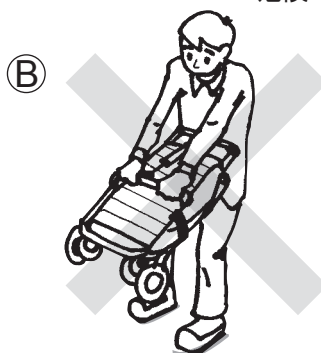
自動車のトランク（荷室）に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱いってください。

図①のように、後輪のついているベースフレームをつかんで、本機全体を底からかかえるようにして持ち上げてください。

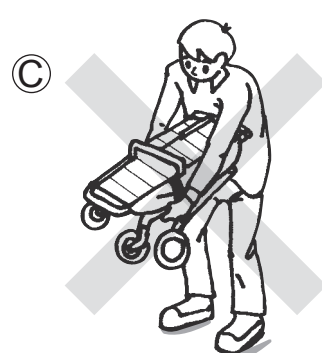


○ ベースフレームを持ち、全体をかかえてください。

図②③のように、バックサポートのパイプのみ、もしくは前足フレームや後足フレームだけをつかんで持ち上げることはしないでください。持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい手や指をはさむおそれがあり危険です。



× バックサポートのパイプのみを持っている。



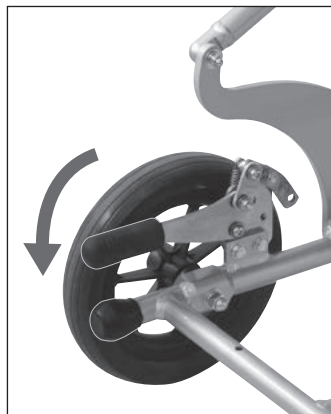
× 前足フレームのみを持っている。



- ・折りたたみおよび開き操作のときは各部が連動して動きます。指などを挟まないよう注意して操作をおこなってください。
- ・周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
- ・傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- ・折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

折りたたみ方

1



フットブレーキ(左・右)をかけてください。
(注:アンダートレイの荷物や機器は別に移してから、折りたたみを始めてください。)

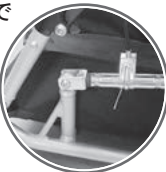
必ず手順に従って折りたたみ操作をおこなってください!
手順を誤るとコンパクトに折りたためなくなるばかりか、フレームを傷付けたり、ワイヤーが破損するおそれがあります。

2



ティルトをとまるところまで倒してください。

※ティルト用メカロックが最後まで縮んでいることを目視で確認してください。



手ばさみ注意!

3



リクライニングをとまるところまで倒してください。次にフットサポートをたたんでください。フットサポートの下側にある横棒を持ち上げるとフットサポートの開き止めのロックがかかります。



ロック



手ばさみ注意!

4



前足フレーム左右の折りたたみレバー(4ページ参照)を握りこんでロックを解除します。握りこんだまま前脚パイプを前方へ送り出すようにして折りたたんでいきます。



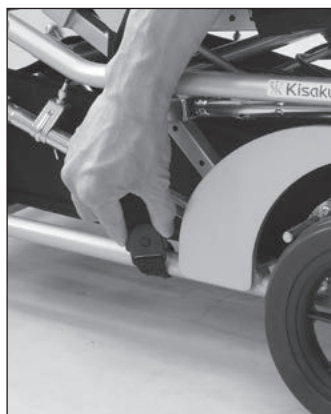
折りたたみレバー



手ばさみ注意!

開き方

1



開き防止ベルトを外してください。

必ず手順に従って開き操作をおこなってください!
手順を誤ると部品がフレームに引っかかるなどして、開かなくなることがあります。

2



通常の使用(折りたたんだとき以外)では、ベルトがぶらつかないように9ページの取り扱い方法にしたがって、バックサポートにベルトを回してください。

3



バックサポートの折りたたみレバーのところからバックサポートを開いてください。使用前にはロックがかかっていることを必ず確認してください。



折りたたみレバー



ロック確認!!

4



背座フレームを持ち、斜め後方へ引き上げるようにして開いてください。



手ばさみ注意!



- ・持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトをしっかりとめて、レバースナップ金具がサイドバーに確実にかかっていることを確認してください。
- ・開き防止ベルトのとめ方が不適切なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ・周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。
- ・開き防止ベルトの取り扱いについては、9～10ページを参照してください。

5



背座フレームが自重で自然にたたまればじめたら、かかってくる重さを支えながら、前方斜め下へゆっくりとたたんでください。



手ばさみ注意！

6



90°より少し開き

押し手ハンドルの角度を90度から少し開いた設定にしてください。



手ばさみ注意！

7



バックサポートの折りたたみレバーを操作して、バックサポートを折りたたんでください。



折りたたみレバー



手ばさみ注意！

7



開き防止ベルト

バックサポートについている開き防止ベルトを装着してください。(9～10ページ参照)



ロック確認！！

5



前足フレーム左右の折りたたみレバーは、自動的にロックされますが、ロックが確実にかかっていることを必ず確認してください。(4ページ参照)



折りたたみレバー



ロック確認！！

6



ティルトをを起こしてください。(乗せやすい適切な角度に設定してください。)



手ばさみ注意！

6



リクライニングを起こしてください。(乗せやすい適切な角度に設定してください。)



手ばさみ注意！

7



ロック解除

フットサポートの下側にある横棒を押し込んでロックを解除してください。そして、フットサポートを開いてください。また押し手のダイヤルロックを使いやすい位置に合わせてご使用ください。



手ばさみ注意！



ロック確認！！

M・Lサイズ アームサポート金具(AS-2)を取り付けた場合の注意

アームサポート金具を取り付けて折りたたんだ際、矢印の距離①(A) (アームサポート金具とブレースパイプのすき間) がせまくなる場合があります。15mm以下になると手や指をはさむおそれがあるため、以下の手順に従って調整をお願いします。

※Sサイズにおいては、この微調整は不要です。

セット内容

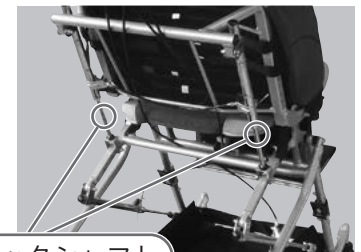


カラー6個
(片側に3個)



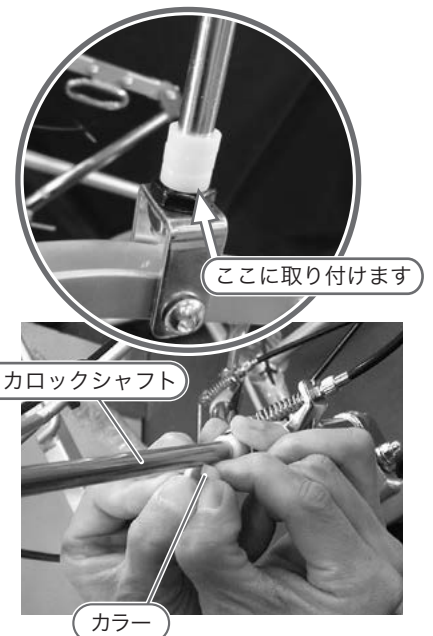
切り込み加工がされています。
取り付ける際はここを開いて
はめ込みます。

この付属品のカラーをアームサポート金具の取り付け高さ・角度によって、背リクライニング用メカロックのシャフトに挿入してください。



■カラー取り付け方法

- ① 折りたたみをおこない、①(A)の距離(アームサポート金具とブレースパイプ)が15mm以上であるかの確認をしてください。
- ② ①(A)の距離が15mm以下の場合、背リクライニング用メカロックシャフトにカラーを取り付けてください。
①(A)の距離が15mm以上確保されるまで、必要な個数を取り付けてください。
- ③ カラーを取り付ける際は、カラーの切り込み部分を写真のようにメカロックのシャフトに押しあてながら開いて取り付けてください。



取り付けの際は、切り込み部分の切断面で指など挟まないよう十分に気を付けておこなってください。

※アームサポート金具の取り付け高さ・角度によっては①(A)の距離は変わります。

※付属のカラーを1個取り付けるごとに背リクライニングの倒れ角度が約2度少なくなります。

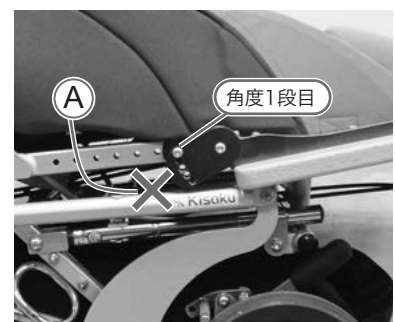


ご注意

アームサポート金具を以下の条件で取り付けて折りたたんだ状態で最も①(A)の距離がせまい設定です。

- ・アームサポート金具取り付け高さ：一番上
 - ・アームサポート金具取り付け角度：一段目
- (アームサポートの角度が最も前下がり状態)

上記(写真)の条件で設定する場合は、手や指をはさむおそれがあります。必ず上記の手順で調整をおこなってください。



車載使用時の車椅子の固定方法

車両に設けられた車椅子固定装置を使用してください。事前に、使用する車両の取り扱い説明書を十分に確認して下さい。

多くの福祉車両に設けられている4点式ベルト方式の固定装置では以下のようになっています。

- ①車椅子を福祉車両の所定の位置に合わせたら、車椅子のブレーキをかけてください。
- ②前方左右の固定ベルトのフックは、座フレームの下方にあるフック受けケージ(固定位置マークシールの位置)に左右それぞれ掛けてください。(写真1)
- ③後方左右の固定ベルトのフックは、座フレーム後部の左右に取り付けたフック受け金具(オプション)にそれぞれ掛けてください。(写真2)



フック受けケージ



フック受け金具

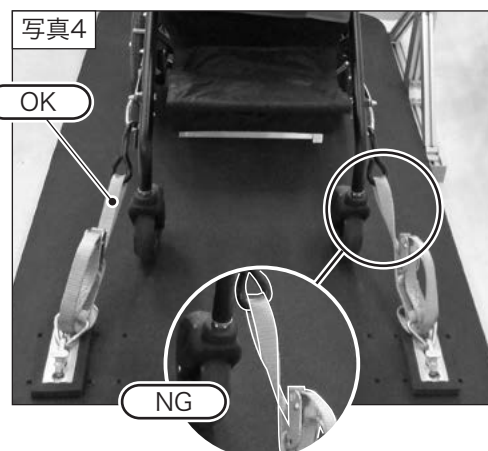
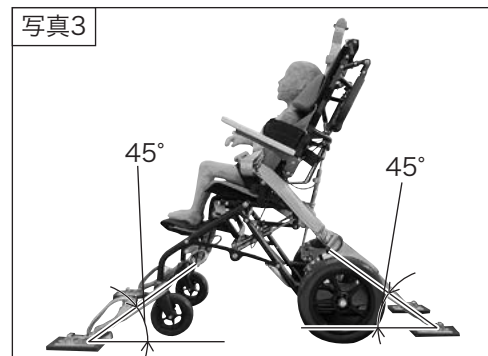


- 本機(製品)を車両に固定する際は、固定位置マーク以外(フレームや部品など)に車両のフックをかけないでください。
- フック受け金具について、弊社指定の金具以外を取り付けてのご使用はお控えください。想定外の破損やアクシデント、固定不良などの恐れがあります。



固定位置
マーク

- ④固定ベルトの引き方向が調節できる場合は、前後の固定ベルトの床との角度が45°に近くなるようにしてください。(写真3)
- ⑤固定ベルトは、できるだけ捻じれが少なくなるように掛けてください。一回転以上捻じれている場合は必ず捻じれを戻してください。捻じれて張られた固定ベルトは走行中に緩むことがあります。(写真4)
- ⑥固定ベルトは、できるだけ途中のベルト部分が車椅子のフレームや車輪に接触しないようにしてください。走行中に接触箇所がずれてベルトが緩んだり、擦れによってベルトを劣化させてしまうことがあります。
- ⑦固定ベルトの車両側の引き出し位置によっては、フックやベルト部分が車椅子のフレームやタイヤに干渉して遠回りする状態となり、不安定な固定になってしまうことが考えられます。このような場合には、フック受け金具の取り付け方を出荷時の状態から変えることで、固定ベルトが直線的に張られて安定した固定を得られることがあります。詳しくは「フック受け金具の取り付け方法」(P17)をご覧ください。
- ⑧車椅子を固定したあとは、絶対にティルト角度の設定を動かさないでください。※ティルト角度の設定については、15・16ページをご覧ください。



- 搭乗者の手足や腕、衣服や搭載品などが車椅子や固定ベルトなどに挟まれないように注意してください。
- 指定されている位置以外への固定はおこなわないでください。
- 走行前に固定ベルトが捻じれていないか、また確実に固定されていることを確認して下さい。確実に固定されていないと走行中に車椅子が動きだし、転倒したり車椅子が破損するなどの重大な事故につながるおそれがあり危険です。
- 車載使用でオプションのテーブルを使用する際は、カーシート用テーブルをお勧めします。(詳しくはP8参照)

次ページの注意事項を必ずご確認ください。

車載使用(走行する車両において座席として使用)についてのご注意

- ① 本車椅子は国際規格による衝突安全テストである「ISO7176-19AnnexA」に適合しています。これによって、本車椅子がテスト時に採用した使用状態※1(図1参照)であれば、ISOがモデル化した衝突事故で搭乗者が受けるダメージはISOの基準以下※2であり、かつ車椅子は、深刻な二次被害が生じる壊れ方をしない※3ことが確認されています。

※1(図1参照) 3点式の腰ベルト:中央部が胴と脚の境目で身体に密着し、両端側が床に対して約45°の角度で後方に引かれている。
/3点式の肩ベルト:片方の肩の中央付近から対角線状に胸部に密着し、反対側の腰の近くで3点式の腰ベルトに接続している。
/車椅子固定ベルト:前後の固定フックが所定の位置に掛けられ、それぞれが床に対して約45°の角度でハの字状に引かれている。
/バックサポートの角度:水平からの起き角で75°。

※2 急ブレーキ中の搭乗者の頭の移動量が基準値以下である。/ 急ブレーキ中にずれた車椅子が搭乗者に大きな水平荷重を加える可能性は低い。/ 停止後にバックサポートの角度は変化しておらず、搭乗者は前後左右に大きく傾くことなく車椅子に座っている。

※3 鋭いエッジができる割れ方をしない。/ 搭乗者はシートベルトを外すだけで壊れた車椅子から容易に離れることができる。/ 壊れた車椅子から車載時固定用ベルトを容易に外すことができる。

- ② 本車椅子が備える車載時固定用フック受け金具やフック受けケージなどの車載使用を補助する構造は、すべての車載使用の安全を保障するものではありません。
- ③ 本車椅子に装備された胸ベルト、腰ベルト、肩ベルト等は、通常使用での姿勢保持用のものであり、車両が走行する際の様々な加減速、路面の凹凸、カーブでの揺れなどに対して使用者の身体を完全に支えるものではありません。



●本車椅子が衝突安全テストに適合した条件に近い使用状態であっても、全てのアクシデントに対応できるものではありません。衝突事故を含む実際のアクシデントは、ISOがモデル化した単純な正面衝突ではない場合が多数であり、本製品の車載安全性には限界があります。

●車載使用については、搭乗者もしくは保護者(入所施設の責任者など含む)の責任において、実際のドライブ中にやむを得ず急ブレーキや急ハンドルなどの運転操作がなされた場合や、万が一の衝突事故が起こった場合のことを十分に考慮したうえで実施してください。

■(重要)車両に装備されたシートベルトの装着について

搭乗者は、車両の取り扱い説明書に従った方法で車両の3点式シートベルト(腰ベルト、肩ベルト)を必ず装着してください。搭乗者が車両に装備されたシートベルトをしていない場合には、急停車の際に搭乗者が車椅子を離れて前へ飛び出すのを阻止できません。

本車椅子は姿勢変換機能を備えていますが、車載使用時には図1に示すようにティルト角度が5~10°、バックサポートのリクライニング角度が10~15°に設定されて前を向いている姿勢が理想的です。(本製品は、車載使用時の角度設定をティルト角が10°、バックサポートのリクライニング角が垂直から15°を目安とした設計になっています)搭乗者の身体的な事情でこの姿勢まで起こせない場合は、できる範囲でティルト角とバックサポートのリクライニング角を起こしてください。

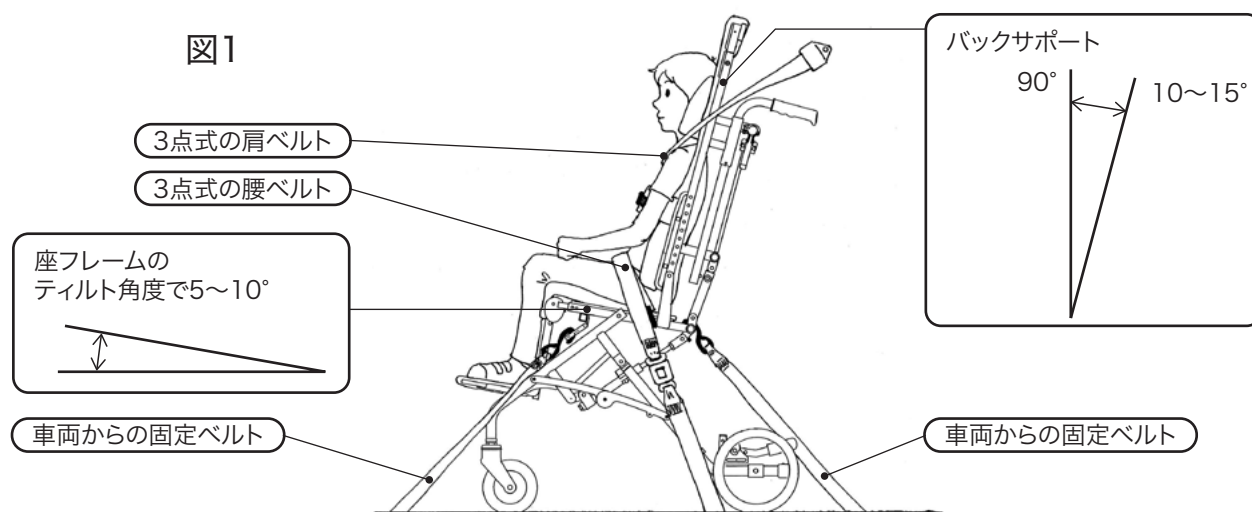


図2に示すようにバックサポートのリクライニングを倒すほど急ブレーキ時には、身体がシートベルトの内側を滑り抜けて前方へずれやすくなります。この図2のようにティルト角はあまり倒さずにバックサポートをリクライニングさせた全体的にフラットに近い条件の場合、搭乗者は車椅子から滑り落ちてしまいます。

一方で図3のようにティルト角を倒して座面が立っている場合、搭乗者は座面に止められて滑り落ちにくくなりますが、上半身が圧縮されるようなダメージを受けるリスクが高まります。

図1のような前を向いた姿勢や車両の取り扱い説明書にあるような標準的なシートベルトの装着が難しい場合には、急停車時に搭乗者に起こる慣性的な動きを少しでも車両のシートベルトで受け止められるように努めてください。

図1のように車両のシートベルトが機能している場合、搭乗者が前に飛び出しそうになる動きは座面に押し当てられる動きに変わります。車椅子は、この座面に下向きにかかる荷重に耐えることで衝撃を受け止めます。本車椅子は、アクシデントに際して、車両のシートベルトなしに搭乗者を受け止めることはできません。

図2

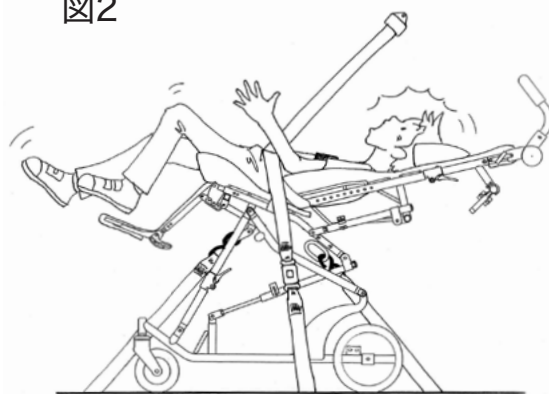
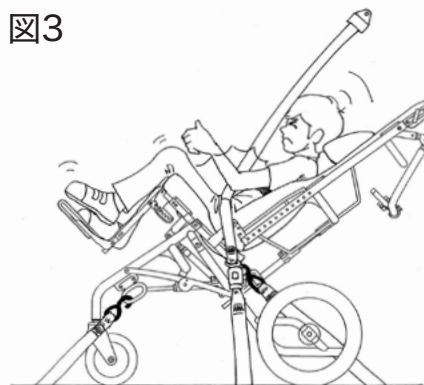


図3



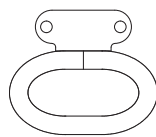
- 車椅子での乗降は必ず介助者が行ってください。
- 安全のため車椅子本体に取り付けられている(処方された)ベルト類と車両の3点式シートベルトはどちらも必ず装着してください。
- 発進前に車椅子が確実に固定されていることを再確認してください。

車載時固定用フック受け金具の取り扱いについて(REST-wagon II オプション)

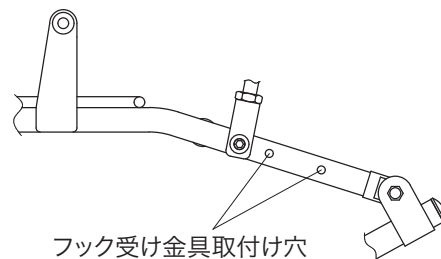
車載時固定用フック受け金具はREST-wagon II 専用のオプションで、車載時に固定ベルトのフックをかけることができます。
フック受け金具を取り付ける場合は、前フレームにある台座を使用してください。

■セット内容

- ・フック受け金具本体: <2個>
- ・六角穴付き半ネジボルトM6×30(緩み止め剤付): <4本>
- ・ワッシャー φ6×φ13×1.0: <4個>
- ・袋Uナット M6: <4個>
- ・固定位置マークのシール: <4枚>



フック受け金具本体



フック受け金具取付け穴

■取り付け方法

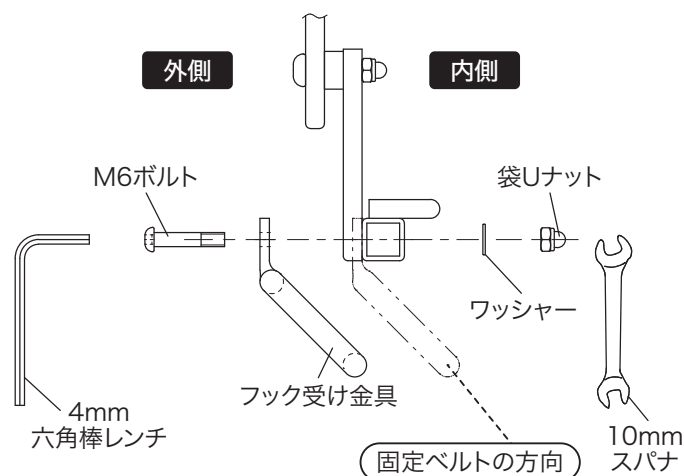
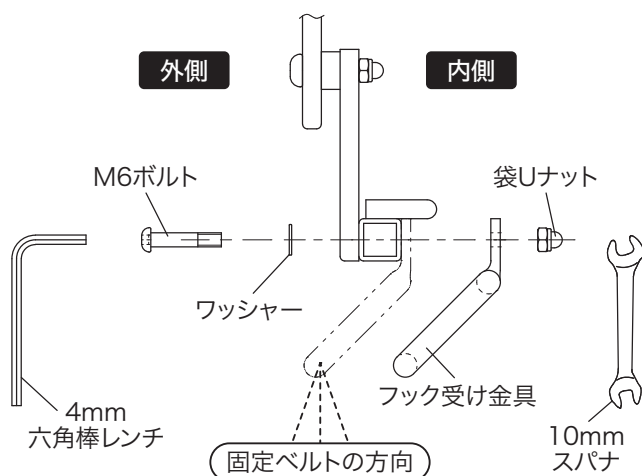
取り付けには、4mmの六角棒レンチと10mmのスパナを使用します。

固定ベルトの車両側の引き出し位置やフックの形状などを考慮して、下図のいずれかの配列で組み付けてください。

まず手締めで仮組みした状態で部品の配列を確認し、工具を使ってしっかりと締め込んでください。〈締め付けトルク: 5.2N・m〉

●後部用の固定ベルトがフック位置のほぼ真後ろから出ている場合

●後部用の固定ベルトがフレームの中心寄りから出ている場合



〈重要〉

フック受け金具の取り付けができましたら、4本すべての固定ベルトを所定の位置に掛けて車両の車椅子固定装置を作動させ、4本の固定ベルトが均等にたわみなく、しっかり張っていることを確認してください。

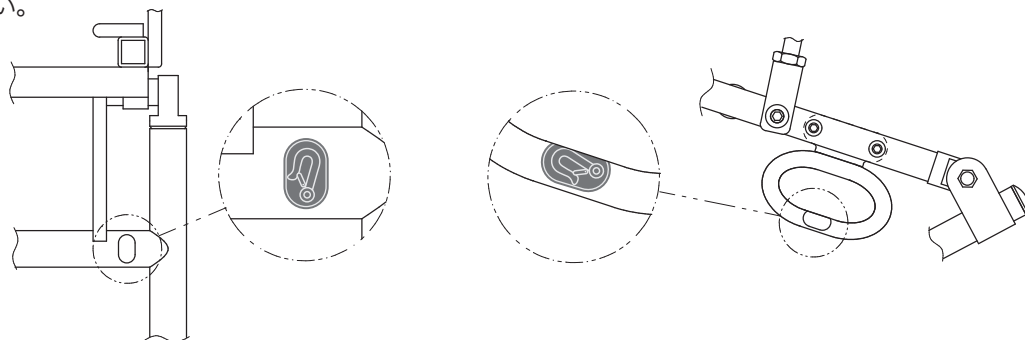


〈注意〉

図に示した2つのパターン以外の配列で取り付けただけの場合には、フック受け金具がフレームに干渉して折りたためなくなったり、折りたためても荷物トレーの壁を押しつぶしてしまう可能性があります。

■固定位置マークシール貼り付け箇所

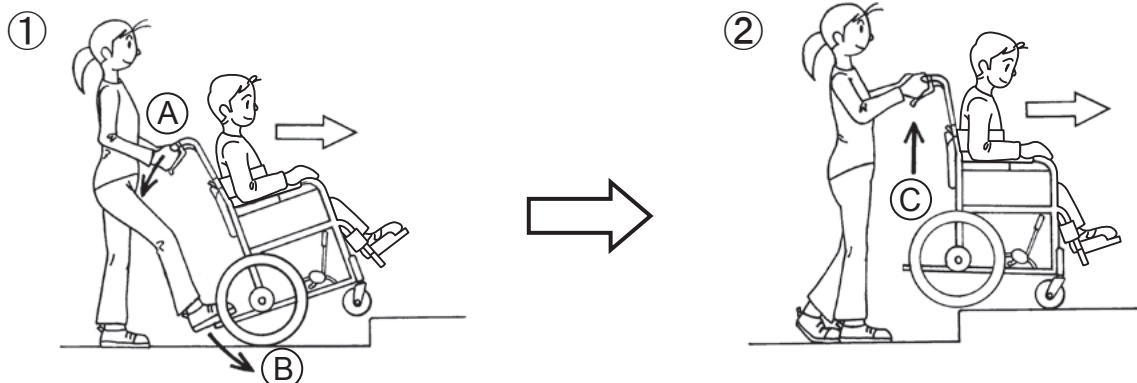
フック受け金具を取り付けたら、シールを下図の指定位置にしたがって、必ず貼ってください。貼る前には余分なホコリや水気、油がないように表面を拭いてください。



- 使用前には、確実に取り付けられていることを確認して下さい。
- フック受け金具としての目的以外での使用は決しておこなわないでください。
- フック受け金具を後付けする場合は、必ず取扱業者が適切なボルトナットとトルク管理のもとで取り付け作業をおこなってください。決して、ご利用者様で取り付けをしないようお願いいたします。
- フック受け金具のボルトナットやその他本体の締結具合は、定期的にチェックしてください。
ねじのゆるみや脱落などが起因して、走行中に車椅子が動きだし、転倒したり車椅子が破損するなど重大な事故につながるおそれがあります。

車椅子の取り扱い

●段差越えの仕方



①前輪が段差の直前にきたら

A.両手で押し手グリップを手前にひきながら・・・

B.ティッピングバーをななめ前方に踏み込むと前輪が上がるのでこのまま前方に進み、前輪を段上にのせます。

②そのまま進んで後輪が段差の直前にきたら

C.押し手グリップを持ち上げて後輪を浮かせ、そのまま前方に進み後輪を段上にのせます。



絶対に勢いをつけて乗り越えようとししないでください！

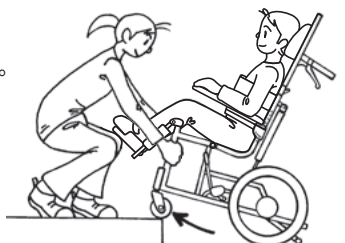
(前方転倒や乗っている方の転落、車椅子の破損などのおそれがあります。)

⊘ 押し手グリップだけでの前輪上げは禁止！

後方からの段差越え操作がむずかしい場合は車体前方を直接持ち上げる



ティッピングバーを利用せずに押し手だけの操作で無理に前輪を上げようとすると車椅子が破損するおそれがあります。必ず押し手とティッピングバーの両方を利用してください。



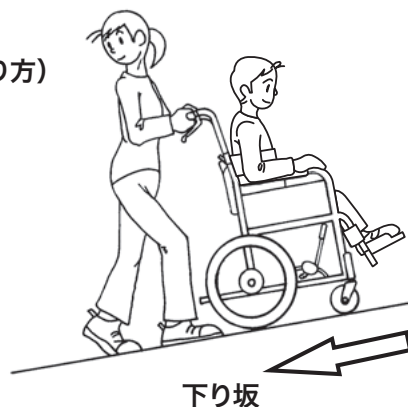
リクライニング車などで後輪位置がより後方にある場合は、押し手とティッピングバーの操作での段差越えは困難な場合があり、無理をすると車椅子が破損することがあります。そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。

●坂道での操作について

(登り方)



(下り方)



坂道の登り降りでは、車椅子の操作を特に慎重におこなってください。登り坂は前向きで、下り坂は図の様に後ろ向きで進んでください。特に下るときに前向きに進むと、前方に転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあり大変危険です。



押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

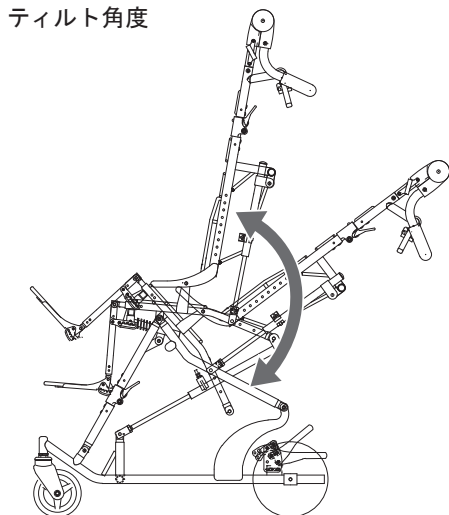
お手入れ・メンテナンス

- ・フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布で拭きとってください。
※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。
特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。
- ・可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量さしてください。
※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。
- ・シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗いするか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。
- ・サイドガードを洗うときは、中性洗剤を使用して手洗いしてください。十分にすすいでから絞らずにタオルなどで水気を取り、形を整えて陰干ししてください。洗濯機、乾燥機は絶対に使用しないでください。
- ・インナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。
ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。
- ・調整や修理などは、まず取り扱い業者にご相談ください。
- ・保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。

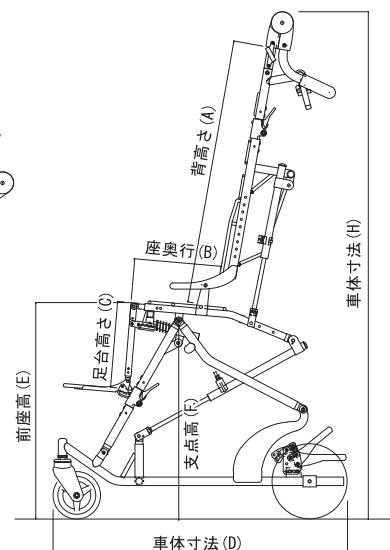
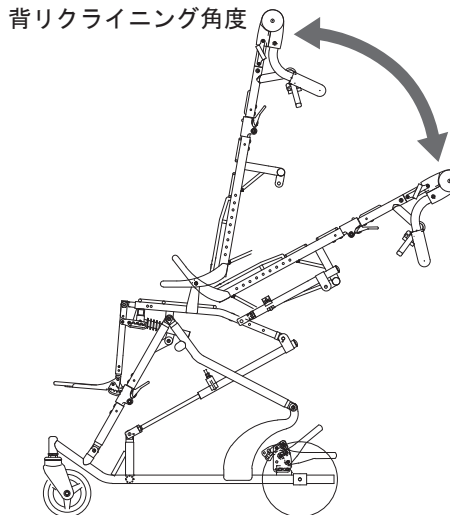
仕様

		Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ
背幅／座幅	mm	420／385	420／385	445／410
背高さ (A)	mm	660～720	700～760	775～835
座奥行 (B) ※背スリング面より	mm	175～265	220～310	280～390
足台高さ (C)	mm	200～270	230～320	250～360
車体寸法 (W×D×H)	mm	540×780×1300	540×780×1340	565×780×1410
前座高 (E) ※ティルト起し時の前座高さ	mm	575	575	580
支点高 (F)	mm	525	525	525
折りたたみ寸法 (W×D×H)	mm	540×900×490	540×870×470	565×900×480
ティルト角度 ※背スリング面を基準	度	5°～47°	5°～47°	5°～47°
背リクライニング角度	度	95°～145°	95°～145°	95°～145°
エレベーター角度		4段階 (約14度ピッチ)		
フットサポート角度		5段階 (約14度ピッチ)		
基本重量 (シート重量含む) ※アンダーレイを除いた重量	kg	約16.5	約16.6	約17.0
調節スリングシート	材質	ナイロン100%		
シートユニット	材質	ポリエステル100%		
対応身長	cm	約90～110	約110～130	約125～145

ティルト角度



背リクライニング角度



製造・発売元

株式会社 きさく工房

〒811-2126 福岡県糟屋郡宇美町障子岳南5-10-11
TEL 092-932-7600 FAX 092-932-1037
E-mail info@kisakukobo.jp

取り扱い業者・連絡先

2024.7